
怪盗キッド 牢屋脱獄Project !

迷探偵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

怪盗キッド 牢屋脱獄Project!

【Nコード】

N1739B

【作者名】

迷探偵

【あらすじ】

ある日、怪盗キッドが盗みに失敗して牢屋に入ってしまう!けれどキッドはあきらめず・・!?

(前書き)

この小説は非常に短いです。

次回、続編も書くかもしれません。

今回は今回でお楽しみください。

俺、工藤新一は、今、組織を壊滅させる計画を練っている・・・何故かという、ジンに居場所を突き止められそうになっているのだ。

「やっぱり引越した方が良いんじゃない？まず安心できる場所に移動しないと。」

「だが奴等に引越し現場をおさえられたらどうする？武器を持つのは不自然すぎる。」

灰原と俺がお互い口論する。一進一退で埒が明かない。

ピーンポーン・・・

インターフォンが鳴った。阿笠博士が出る。

「はい？何か用でも・・・」

「よお！工藤！元気にしとったか？」

でた、災難色黒男。

「なんや、深刻な顔しよって。ドーナツ持ってきてやったのに。」

「喧しい！そういう気分じゃないんだよ！俺は！」

「まあ、そう怒鳴るな、新一君。」

「どないしたんや？なんか事件でもあったか？」

「ホオ。そらやばいなあ。で、どうするんや？」

「それを考えてたんだよ。」

「そんならあいつに頼んでみいや。この前やっと電番つかんだんや。」

「へ？」

「何ですか？」

電話には、女の人が出た。あいつの母さんだろう。

「快斗ですか？少し待っててください。」

そう、快斗、すなわちキッドだ。

「何ですか？快斗ですが。」

男らしき声が。俺は一気に勝負に賭けた。

「工藤新一だ。黒の組織について教えろ。」

「誰だよアンタ。」

「工藤新一だって。」

「悪いけど、黒の組織にちょっと深く関わってんだ。お前は今は狙われないよ。急いでるから。」

ガチャン！

切られた。

「あいつと黒の組織が関わっている・・・!?」

そのとき、キッドが3日後のための、暗号を作っていた。IQ400だから1+1より簡単だ。

・・・内容は省略だ。

遂に予告日当日。今回は黒の組織が絡むいわくつき宝石、『black star』だ。

「今回はちょっと手間取りそうだな・・・」

盗む場所はベイカシティホテルだ。とはいっても一般人には分からない暗号だが。

「予告状は間違いなくベイカシティホテルを指しておる！入り口と屋上に人員を裂け！」

そう、いつものキッド専門警部だ。

「lady and gentleman！ 今宵も、黒の宝石、black starは頂きます。」

でた！いつもに増してトリックが込んでいる。屋上に音も無く現れ、普通に飛び降りてきて、black star のある嚴重保管室にこっそりと忍び込んだ。

パシュッ！

サイレンサー付きの拳銃の銃声だ。キッドはもう少しで心臓にあたる所だったが、ぎりぎり避けた。

撃ったのは、黒い服に金髪、そう、ジンだ。

致命傷ではないが戦えるほど浅手ではない。

「キッド、大人しく牢獄に入れ。ポリの世話になるんだな。」

「クッ・・」

バタッ！倒れてしまったキッドを、ジンは起こし、人目のつく所に投げた。

「じゃあな！怪盗！」

この言葉は新一に毒薬を飲ませたときと同じ言葉だ。新一のようにキッドも助かるだろうか？

「うつ。ここは何処だ？」

牢屋だ。捕まったらしい。番人が食事を運んできた。

コッ コッ コッ コッ キイイイイイ

「目を覚ましたか。ほれ。食事だ。食え。」

キッドは2分でたいらげ、脱獄の作戦を考えた。

服も没収されているから武器といえるものは少ない。

手元にあるのは予備のハングライダーと、安全ピン、煙幕3個、それに拳銃の弾が2個。

あと水3& amp; #8467;、折りたたみナイフ一本ぐらいだ。武器とはいえないが片眼鏡もある。

まず、必要なものは見取り図だ。

幸運な事にこの牢屋の斜向かいに倉庫がある。見取り図はあそこだ。

牢屋だから武器は置いていないだろう。脱獄されて武器を取られたら大変だからな。

いや、一番重要なのはこの強固な牢屋だろう。扉は鋼鉄製。爆弾でもなきゃ壊せない。

換気のために小窓があるが、ここからは外が見えるだけだ。

コンコン！

む！？上から音がする。

そうか、この牢屋は2階建てか。

これをうまく利用すれば外に出られる！

とりあえずは寝るしかない。

チャンスは1度。俺が脱獄したら罪で死刑かもしれない！

明日が執念場だな・・・

そう思いながら眠った。

「おい、食事運んできたぞ。」

作戦はここから始まる。

「悪いな♪」

煙幕で番人をまく。特殊加工で2分は持つ。

「ここか。倉庫は。」

安全ピンで1分以内にこじ開け、見取り図を奪う。

これで見取り図はOK。

瞬間的に牢屋に戻る。キッドの走力でなせる業だ。

「おい！お前、何してた！」

「ちよつとね♪」

そういつてる間に外に走りぬけ、その間に見取り図を見て部屋配置を把握する。

「貴様！脱獄囚だな！」

銃を構える前にナイフを首に突き立てて銃を奪う。

勿論キッドは殺人はしないから脅し用のナイフと銃だ。撃つときも

急所を外して足止めするだけだ。

「管理部屋でマイク拝借するか。スリルがないと。キッドはもう変装していた。」

さつき、番人から服を掠め取ったのだ。

キッドは管理部屋に侵入していた。

「お前・・・！」

警官が言い終わらないうちにマイクをとった。

そして、所長の声でこういった。

「キッドが逃亡した！今すぐ取り押さえるのだ！」

当然だが大勢の警官が追ってくる。

キッドは二階に上がった。2階には廊下の突き当たりに人が悠々と入れる大窓がある。

キッドは其処から飛び降りた。

「では。今度、black starの元でお会いしましょう。Good luck！」

キッドの逃亡は、日本全国を騒がせた。

まず大勢の人間が驚いたのは、捕まった事だ。

絶対に捕まらないと高い評判を受けていたキッドが捕まったのだ。

当然、全国ニュースの的だ。

脱獄は、キッドの話題で盛り上がる民衆を更に盛り上げた。

世界一逃亡が難しいとされている監獄から脱獄したのだから。

キッドは相変わらず話題の肴だ。

その頃、やはり新一たちもキッドの事を話していた。

「キッドが逮捕だと!？」

快斗は追い出された。傷はもう完治しているが。

「さて、これからblack star盗みに行くか。

black starは、キッドの件により組織の手を離れ、現在はベイカ博物館に展示中。

キッドはそれを盗みに行くのだ。

「前は組織の息がかかって失敗したが今回は絶対に失敗はしないぜ！」

ベイカ博物館はやけに静かだった。black starの部屋にも警官一人いない。

「予告状出し忘れたかな？」

いや、確かに予告状は出されている。難解な暗号で。

警察が罠を張ったのだ。この後、更にキッドは牢屋を脱獄する羽目になる。

この続きはまた次回……

(後書き)

前書きの通り他の作品よりこれは文字数が非常に少ないです。

初めてなので多めに見てください。

続編も書くつもりなのでお楽しみに！

では！今回の『脱獄』をお楽しみください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1739b/>

怪盗キッド 牢屋脱獄Project !

2010年10月23日07時11分発行